

全国海運組合連合会

令和5年度 船主連絡協議会 貨物船部会 広島大会 開催



全国海運組合連合会(全海運)は、2023年10月27日(金)、広島市内に於いて「令和5年度 船主連絡協議会 貨物船部会 広島大会」を開催した。

船主連絡協議会(船連協)は、全海運【貨物船部会】と全国内航タンカー海運組合(内タン)【油送船部会】で構成されており、全海運では、今後も安全且つ安定的な内航輸送を提供する為に、オペレーター訪問を行い、相互に協力する関係構築を目指して活動を行っている。

その一環として毎年1回、地方大会を開催し、船主の抱える課題について討議を行い、オペレーター訪問等の活動に反映している。

今回は、来賓として、全海運・藏本由紀夫会長並びに中国地方海運組合連合会・岡本信也会長にご臨席を賜った。

また、内タン【油送船部会】からは、三谷秀明部会長が出席、全海運【貨物船部会】からは、日浦公德部会長、渡邊慶太副部会長、埴野治次副部会長及び浦山秀大副部会長の4名が出席し、一般参加者は中国地方管内以外のエリアからも足を運んで頂き、事務局関係者を含め総勢40名以上が全国から参集した。

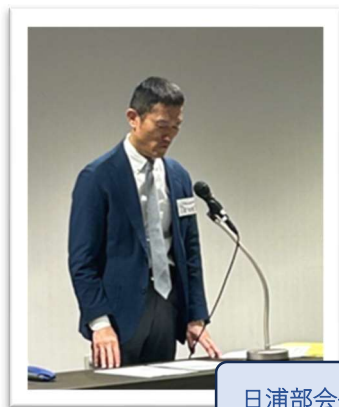


全海運 藏本会長・中海連 岡本会長



貨物船部会長・副部会長、油送船部会長

事務局から船連協の委員及び事務局、並びに来賓を紹介した後、両部会長より本大会の概要また要望が述べられ、次いで岡本会長から船連協の成り立ち※についてご説明があった。



日浦部会長



三谷部会長



岡本会長

その後、日浦部会長の開会挨拶で幕開けした。

今回の大会は「積極的に船主間の交流を図ろう」をスローガンに前半・後半の2部構成で開催。

前半において、全海運【貨物船部会】の委員4名より以下の5項目について説明があった。

- ① 船主連絡協議会（貨物船部会）の活動について ————— 日浦部会長より説明
- ② 2023年度 貨物船 船舶経費について ————— 渡邊副部会長より説明
- ③ 2023年度 若年船員育成費用について ————— 埜野副部会長より説明
- ④ 労働供給制約社会がやってくるについて ————— 日浦部会長より説明
- ⑤ 内航ミライ研究会（内航海運業界のミライを考える）について —— 浦山副部会長より説明

後半は、一般参加者を4グループに分けて、毎年恒例のスタイルである小グループによる座談会を約75分間行った。

【小グループ座談会議題】

- ① 貴社の事業規模について
- ② 貴社の経営状況について
- ③ 2023年度/令和5年度（本年度）の用船料について
- ④ 船員の労働実態の把握について
- ⑤ 船員法の労働時間について
- ⑥ 船員の働き方改革の影響について
- ⑦ 船員不足の状況について
- ⑧ 荷主、オペレーターへの要望事項について

小グループ座談会の様子



座談会終了後、グループ長を務めた全海運【貨物船部会】メンバー4名より各々のグループ内での発言内容等の取り纏め結果の報告が行われた。

続けて、本大会閉会に際し、三谷油送船部会長より、次いで藏本会長より挨拶を賜り、最後に日浦部会長より出席者に感謝を表した上で、総括内容の発表並びに閉会挨拶を賜り、盛会裏に終了した。

(日浦部会長の主な総括内容)

- 内航船主にとって最大の課題は「船員不足」であることを再認識した。
- 経営困難にもかかわらず防衛的に賃上げを行っていることを背景として、現状を改善するためには高騰する船員費や増加する修繕費を用船料に転嫁する必要がある。
- 保有船の法定償却年数に基づく適切な用船料の確保を目指す必要がある。
- 荷主やオペレーターに船主の経営実態を理解してもらうための活動が船連協の使命である。

船連協では、小グループの座談会で取り纏めた意見や要望等を踏まえて11月下旬に予定しているオペレーター訪問に臨む。

※船連協の成り立ち

2001年(平成13年)に全海運と内タンによる合同会議がきっかけで、翌2002年(平成14年)に正式に「船主連絡協議会」として発足。